

風を感じて

～心地よい「風を感じて」～

当院の緩和ケア病棟は平成14年に開設され15年が経過しました。私は開設当初のスタッフとして5年間関わらせていただきました。最初は日本一小さな緩和ケア病棟として5床からのスタートでした（現在は6床）。開設当時は私自身緩和ケアとは何かを自問しながら日々過ごしていました。5年間に会った患者さまには多くの学びをいただきました。今でも当時のことが心の中に浮かびます。数日の関わりの方や長期に関わらせていただいた方と様々です。患者さまに残された時間をその人らしく生き抜いていただくための支援は一言では言い表せません。それは患者さま一人ひとりにそれぞれの人生があるからです。患者さまの趣味の話から外出支援で陶芸体験に出かけ、世界で一つしかないお皿をつくり「これに合う料理を考えんといけんね」と笑顔で話されたことが思い出されます。テラスで夏の風物詩、花火の優しい光を静かに見守った日もありました。すべてが私にとって大切な患者さまからの贈り物です。どれだけ残されているかわからない時間をどう生き抜くかを決めるのはご本人しかいません。しかし、終末期になると様々な辛い症状が現れわずかな事さえも考えることが困難になります。いらいらも表れます。私たちは心を耳にして、または耳を心にしてしっかりと患者さま・ご家族に寄り添い様々な苦痛の緩和に努める必要があります。

当院の緩和ケアは緩和ケア病棟だけでなく、一般病棟・外来・在宅に至るすべての場で緩和ケアを提供できるシステムを構築しています。そして専門職だけでなくボランティアの方を含めた多職種がチームアプローチを展開しています。ひとは必ず死を迎えます。一生懸命生きてきた人たちがご家族と共に



緩和ケア病棟スタッフ

人生のまとめができたらいいなあとと思います。病棟のテラスでは小さな花が風に吹かれています。患者さま・ご家族が心地よい「風を感じて」いただけるような看護の心をお届けするよう努めてまいります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



副院長 兼 看護部長
すえ ひろ きよ み
末 広 清 美

緩和ケア病棟多職種紹介



理学療法士
よしむら じゅん
吉村 淳

笑顔になる様なリハビリ

緩和ケア病棟の勤務となり3年が経過しました。たくさんの患者さまやご家族と出会いリハビリをさせていただく中で、リハビリに対する印象やイメージを拝聴しました。その中の多くは「リハビリはしんどいもの、痛くても頑張るもの」であった様に思います。実際に、過去に骨折などでリハビリを受けられた方の中には痛い思いをしながら、頑張られた方もいらっしゃいました。

その様な経験をされた患者さまにとってリハビリは苦痛と感じられるかもしれません。緩和ケア病棟で行うリハビリは痛みや苦痛を伴うものであってはいけないと思っています。リハビリすることで痛みや苦痛が和らぎ患者さまが笑顔になる様なリハビリができるように努めていきます。



看護師
こんどう まど か
近藤 円香

その人らしく穏やかな時を

緩和ケア病棟に配属され、3年が経ちました。たくさんの患者さまと出会い、いろんなことを学ばせていただきました。

患者さまと接する中でいつも印象に残っているのは、その方の人生や考え方です。同じ病気、同じ症状でも、苦痛の感じ方は一人として同じ人はおられません。お一人お一人に合った緩和方法を、医療スタッフ、患者さまとともに考え、日々関わらせていただいています。

これからも患者さまの思いを大切に、その人らしくご家族と穏やかに過ごせるようお手伝いさせていただきたいと思います。



臨床心理士
ひぐち あつ し
樋口 篤志

その人らしさを大切にしたい関わり

緩和ケア病棟に携わるようになってから、2年になります。たくさんの患者さまとの出会いの中で、これまでの人生を振り返って大切にしてきたことをお伺いしたり、周りの人々に覚えておいてほしいものについて話しをする機会がありました。

何を大切にしたいかは、患者さまやご家族によってそれぞれ異なりますが、一人一人のご希望を尊重しながら、穏やかに過ごしていただきたいと考えております。病気になってもその人らしく過ごすことで、心の安定につながる事が出来るようサポートしていきます。お一人で悩まずに、ぜひお話を聞かせてください。



看護師長
いのうえ あおい
井上 あおい

素敵な出逢いを...

訪問看護師として10年目となりました。多くの利用者さまやご家族との出会いがあります。「家に帰って桜が見たい。」と、自宅退院され、満開の桜を本人・ご家族と一緒に見ながら「家で介護できてよかった、看護師さんが来てくれて安心だ。」と言ってくださいました。今も桜の時期になると思い出します。

住み慣れた場所で療養される利用者さまから喜んでいただけることは、訪問看護師としてのエネルギーになります。

このように、出会いを大切に丁寧なケアを行いながらコミュニケーションを図っていくことを心がけ、これからも安心して過ごせる地域づくりの一翼を担っていくよう邁進していきます。

新スタッフ等紹介



音楽療法士
みやまこ ゆきえ
宮廻 幸枝

今年度から4年ぶりに緩和ケア病棟の担当をさせていただきましたこととなりました。患者さまやご家族の大切な思い出の歌やエピソードを伺い、一緒に歌い、聴いていただく中で、少しでも心穏やかに過ごしていただけるよう努めていきたいと思っております。よろしくお願い致します。



言語聴覚士
むらかみ あかね
村上 朱実

今年の4月から緩和ケア病棟でお世話になっております。

様々な症状やお気持ちを抱えておられ、そして様々な人生を歩んでこられた患者さまご家族から多くのことを学ばせていただいています。

まだまだ未熟者ですが、少しでも患者さまご家族のご希望やお気持ちに寄り添えるよう努めていきたいと思っております。よろしくお願い致します。



看護師
たけだ まさし
竹田 昌史

平成28年4月に緩和ケア病棟へ配属となり、先輩看護師の方に教えていただきながら日々頑張っています。ここに来られる患者さまは、悪化していく症状や「死」に対して強い不安や悩みを抱えていらっしゃると思います。その症状や不安を少しでも和らげて、一日一日有意義な生活を送っていただけるように支援して行きたいと思っています。



ホスピスボランティア
コーディネーター
ひじ みほ
臂 美穂

ホスピスボランティアさんのコーディネーターをさせていただいています。ティーサービスや生け花、壁面を飾るなどのボランティアさんの活動は、緩和ケア病棟が家庭的で温かく、季節を感じるような雰囲気を作ってください、患者さまやご家族に喜ばれています。これからもボランティアさんの活動を支援していきたいです。



ボランティアだより

「抹茶ボランティア」

(ボランティア 槇田 麻利子)

抹茶ボランティアの活動は、毎月1回と遺族会の時です。今年で5年になります。

お茶を学ぶ際に、「たえず己の心をかえりみて一盃を手にしては、多くの恩愛に感謝をささげ、お互いに人々により生かされていることを知る」と云う言葉があります。その心を忘れないように心がけるようにしています。

一服のお茶を通して「あ、おいしい。」「気持ちがなごむ。」と思って一時を過ごしていただけるよう心を入れて茶筌を振るよう努力しています。茶筌を静かに持ち上げた時、美しい緑色の表面が茶盤の中に出ると、よかったと思いながら小帛紗におき呈茶をしています。

またお菓子は季節の葉をあしらったりして、見た目にも美しくおいしくいただけますようにと思っています。

これからも出来るだけ続けて、患者さまやご家族の皆様喜んでいただけるようにしたいと思います。





真夏の向日葵



鮮やかなテラスの花畑



病棟看護師

病棟のひとコマ



どじょうすくいの名人芸



クリスマス会の合唱



フルートの音色を聴きながら

緩和ケア病棟基本方針

- (1) 病病連携・病診連携に基づいた在宅ホスピスと施設ホスピスをシステムの両輪とし、さらにボランティアなど地域全体で支える独自の地域に密着した緩和ケアシステムを構築する。
- (2) その人らしく充実した時間を送っていただくために、早い時期から在宅・施設において柔軟で継続的な関わりを持つ。
- (3) 患者さま・ご家族の満足と安心を得られるように、質の高い・心のもったサービスの提供に努め、患者さま・ご家族の声や第三者評価などにより、ケアの質の維持・向上を目指す。

平成22年4月1日制定
平成28年4月1日改定

緩和ケア理念

- (1) 患者さまの生き方や意思を尊重した緩和ケア
- (2) 早い時期からの継続的な緩和ケア
- (3) 在宅および施設における総合的な緩和ケア
- (4) 保健・医療・介護・福祉の連携による質の高い緩和ケア
- (5) 地域に密着した地域緩和ケア

平成14年4月1日制定
平成28年4月1日改定

★ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

公立みつぎ総合病院

<http://www.mitsugibyoin.com>

〒722-0393 広島県尾道市御調町市124番地
TEL0848-76-1111 FAX0848-76-1112
緩和ケア病棟直通 0848-76-1328